

美濃金山城主の系譜

斎藤大納言

斎藤大納言正義は妙春とも称し、斎藤妙椿の系譜を継いで、可見・加茂地域を中心に権力を持ち、1537年(天文6)に烏峰城を築きました。斎藤大納言正義は、1548年(天文17)に久々利城で久々利氏に討たれました。

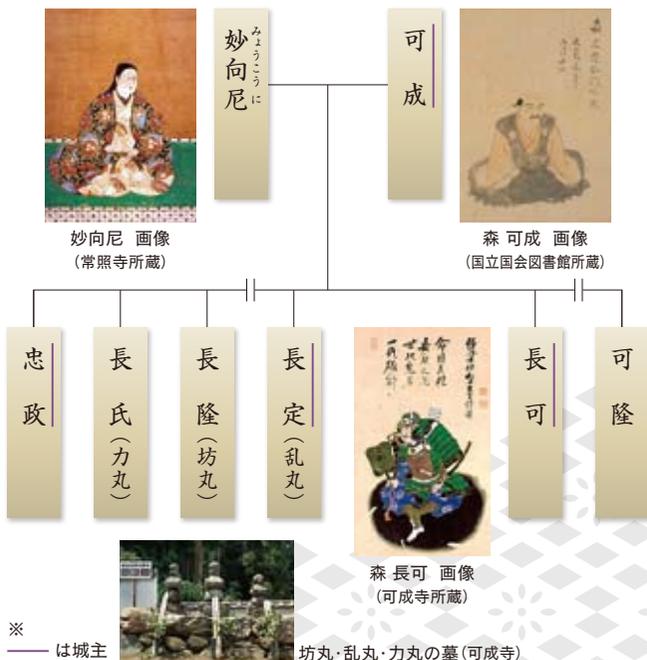


斎藤大納言正義画像 部分 (浄音寺所蔵)

森氏一族

1565年(永禄8)に織田信長から森可成に城が与えられました。可成は入城に際し、城の名を「金山城」に改称したといわれています。以降、長可・乱丸・忠政が城主となりました。

森氏系図



※一五六六(明暦二年)、「金山村」から「兼山村」に改名されました。城跡の名称は改名以前の「金山」を用いています。

年(和暦)	できごと
一五三七(天文6)	斎藤大納言正義が烏峰城に入城。
一五六五(永禄8)	織田信長から森可成に烏峰城が与えられる。金山城に改称。
一五七〇(元亀元)	宇佐山城の戦いで可成死去。長可が金山城主となる。
一五八二(天正一〇)	長可が川中島に転封となり、弟の乱丸が城主となる。六月本能寺の変で乱丸が死去し、長可が再び城主となる。
一五八四(天正一二)	小牧・長久手の戦いで長可死去。弟の忠政が城主となる。
一六〇〇(慶長五)	忠政が海津城主として信州川中島へ転封となり、金山は犬山城主石川光吉の領有となる。その後、破城及び金山越が開始される。

美濃金山城跡の歴史 〈その始まりと終焉〉



二〇一三年一〇月一七日
美濃金山城跡は国史跡となりました



ここも必見!
美濃金山城跡の歴史を知るなら
可児市戦国山城ミュージアム
岐阜県可児市兼山675-1
TEL. 0574-50-8443
入館料/大人210円・高校生以下無料
休館日/月曜日・祝日の翌日



美濃金山城跡の見所

- ◆ 今に残る織豊系城郭の特徴
- ◆ 城の各所に張り巡らされた「石垣」
- ◆ 瓦葺屋根の建物があったことをあらわす「瓦」
- ◆ 建物を支えた「礎石」
- ◆ 土木工事技術の高さを示す、削られた「岩盤」

「破城の痕跡」

城の終わりを伝える

可児市役所 歴史資産課
〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地
TEL 0574-62-1111

お問い合わせ先

国史跡 美濃金山城跡絵図

景観

美濃金山城跡は、近隣の城や北を流れる木曾川、兼山のまちを見渡せる高所に築造されています。本丸跡の標高は276m、城下町とは約170mの比高差があります。平成25年に国の史跡に指定されました。

発掘調査と出土遺物

平成18年度から令和元年度にかけて9回の発掘調査をおこないました。これまでの調査で、天守や門に使用された瓦などの出土遺物や建物礎石が見つかりました。また、茶碗や素焼きの皿・すり鉢などの陶器や古銭、製鉄に使用されたと思われる羽口や石製の容器も出土しています。



瓦 陶片 古銭 羽口

可児市観光交流館

可児市 戦国山城ミュージアム



1 三の丸

北・西・南の三方向に石垣が築かれています。礎石から建物があつたことがわかります。岩盤を加工して虎口が造られています。



2 二の丸西面石垣

この石垣は加工していない石を積む野面積みという積み方で造られています。隙間に間詰め石が詰められています。



3 二の丸

礎石の形状から、渡り廊下のある建物があつたと考えられます。南側と西側に石垣があります。



4 枅形虎口

三方向を石垣に囲まれた虎口で、門の礎石が見られます。左側が本柱の礎石、右側が控柱の礎石になります。



5 東腰曲輪／南腰曲輪／西腰曲輪

東腰曲輪は井戸跡があつたといわれる場所です。ここでは破城の際に捨てたと思われる礎石や瓦が見られました。南腰曲輪、西腰曲輪では礎石が見つっています。



東腰曲輪

6 本丸

天守があつたと想定される場所です。本丸を囲む斜面には石垣が見られ、南側に虎口があります。多くの礎石から御殿のような大きな建物があつたと思われます。



7 左近屋敷

細野左近という武将の屋敷があつたとされる場所です。北側に二段の石垣が築かれています。破城の際に石垣の天端(一番上端の石)の石や隅石を壊した状態が残っています。



8 米蔵跡

美濃金山城跡の米蔵があつたといわれる場所です。北側に壮大な石垣が見られます。この場所から三の丸へ登つたと思われます。



- 礎石 …… 安定した建物を建てるため、柱の下に据えた石
- 虎口 …… 城の出入口
- 曲輪 …… 石垣等で囲まれた平坦な面で建物等があつた場所

【登城のポイント】

- ❌ ……危険なため、立ち入り禁止です。
- ❖ 野外散策に適した服装で見学しましょう。(運動靴、タオル、水筒、夏季は虫除けスプレーなど)
- ❖ 石垣から距離をとった上で、落石等に注意して見学しましょう。
- ❖ 危険な箇所もありますので、足元に注意してください。
- ❖ 出丸(P)から本丸(頂上)までの所要時間は約30分です。